

# 小児慢性心疾患の診断・治療・管理に関する研究

分担研究者 高・尾 篤 良 (東京女子医科大学循環器小児科教室)

## 研究協力者リスト

南部 春生 (天使病院小児科), 五十嵐 勝朗 (弘前大学小児科教室)  
佐藤 哲雄 (山形大学小児科教室), 赤松 洋 (日赤医療センター新生児未熟児科)  
大国 真彦 (日本大学小児科教室), 小佐野 満 (慶応大学小児科教室)  
永沼 万寿喜 (国立小児病院), 新村 一郎 (横浜市立大学小児科教室)  
中野 博行 (静岡こども病院), 長嶋 正実 (中京病院小児循環器科)  
石原 義紀 (福井愛育病院), 神谷 哲郎 (国立循環器病センター小児科)  
森 忠三 (島根医科大学小児科教室), 立石 一馬 (国立岡山病院小児科)  
本田 恵 (福岡こども病院), 加藤 裕久 (久留米大学小児科教室)  
早川 国男 (宮崎医科大学小児科教室)

## 1. はじめに

先天性ならびに後天性心疾患は発生頻度からいっても比較的多い疾患であり、その罹患者は一方では治癒するものもあるが、他方では、合併症、残遺症、続発症が存続して生涯病となり、医学、医療、教育、保険、社会福祉などにわたって多くの問題を提起している。従って、医学上、医療行政上、小児慢性疾患として心疾患の占める位置は大きい。

本邦では従来より学童検診が広く行われ、学童に関しては心疾患についての比較的正確なデータが収集され、教育のみならず医療行政上にも活用されている。しかし、新生児、乳児に関しては、乳児検診制度はあるものの心疾患に関するデータは信頼性に乏しい。

以上の事実をふまえて以下の研究、調査を計画した。

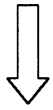
- 1) 新生児期心疾患の実態
- 2) 新生児心疾患診断治療体系の確立に対するガイドラインの作成
- 3) 小児期心疾患の非侵襲的診断法の発展と普及
- 4) 小児心疾患の診断、治療、管理の改善に対する研究

1)~3)については、本年度より調査・研究を開始した。4)については、(i) 小児に対する運動負荷試験、(ii) 小児の不整脈の診断と管理、(iii) 18トリソミーと心奇形、を昭和58年度の研究とした。(i)(ii)については今後も検討を続ける。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 1.はじめに

先天性ならびに後天性心疾患は発生頻度からいっても比較的多い疾患であり,その罹患者は一方では治癒するものもあるが,他方では,合併症,残遺症,続発症が存続して生涯病となり,医学,医療,教育,保険,社会福祉などにわたって多くの問題を提起している。従って,医学上,医療行政上,小児慢性疾患として心疾患の占める位置は大きい。

本邦では従来より学童検診が広く行われ,学童に関しては心疾患についての比較的正確なデータが収集され,教育のみならず医療行政上にも活用されている。しかし,新生児,乳児に関しては,乳児検診制度はあるものの心疾患に関するデータは信頼性に乏しい。

以上の事実をふまえて以下の研究,調査を計画した。

#### 1)新生児期心疾患の実態

#### 2)新生児心疾患診断治療体系の確立に対するガイドラインの作成

#### 3)小児期心疾患の非侵襲的診断法の発展と普及

#### 4)小児心疾患の診断,治療,管理の改善に対する研究

1)~3)については,本年度より調査・研究を開始した。4)については,(i)小児に対する運動負荷試験,(ii)小児の不整脈の診断と管理,( )18トリソミーと心奇形,を昭和58年度の研究とした。(i)(ii)については今後も検討を続ける。